

世田谷区 意見を聴く会 議事概要

日時：平成18年2月5日（日） 15時00分～17時00分

場所：砧小学校

主催：国土交通省及び東京都

協力：世田谷区

参加者：住民67名

国土交通省	山本 東京外かく環状道路調査事務所長 川端 東京外かく環状道路調査事務所 副所長 鈴木 東京外かく環状道路調査事務所 調査課長
東京都	臼田 外かく環状道路担当課長 藤井 外かく環状道路担当 課長補佐
世田谷区	板垣 道路整備部長 青山 道路整備部道路計画課長 窪松 砧総合支所 街づくり課長

提示資料：①東京外かく環状道路（関越道～東名高速）についての考え方
②手続き及び事業の流れと各段階での検討事項
③東京外かく環状道路（関越道～東名高速）（狛江市～世田谷区の区間について）
④東京外かく環状道路東京圏自動車専用道路網図
⑤外環ジャーナル第20号、第21号
⑥外環（関越道～東名高速）計画概念図（1/10、2/10、5/10）
⑦東京外かく環状道路（関越道～東名高速）これまでの検討の総括
⑧将来交通量について
⑨インターチェンジについて
⑩外環意見を聴く会アンケート結果（世田谷区）
⑪「東京外かく環状道路（関越道～東名高速）についての考え方」及び「計画概念図」に対するご意見の整理
⑫意見を聴く会議事概要（世田谷区）

次第：1 開会 2 あいさつ 3 出席者紹介 4 資料説明 5 意見交換 6 閉会

議事概要

1 開会

2 あいさつ

国土交通省

- ・これまで4年間、外環について様々な意見を頂き、議論をしてきて、昨年8月に構想段階の議論に区切りをつけた。国と都で改めて外環が必要であると判断し、昨年9月に外環の「考え方」を発表した。
- ・「考え方」発表の経緯、「考え方」及び「計画概念図」の説明をし、計画の具体化の内容や環境に関するみなさまの意見を伺いたい。

3 出席者紹介

4 資料説明

5 意見交換

：おもな意見は以下のとおり。

なお、今回の意見を聴く会は、冒頭の話し合いの中で、国・都から回答を行うよりも住民の意見を聴くことを優先することとされた。

【外環の本線について】

- ・砧公園の地下にトンネルを通し、東名高速と地下でむすんでほしい。
- ・平成20年代半ばに圏央道ができると発表されており、国に借金のある中、外環は環境や生活に影響があるだけと思われるので、外環は必要ないのではないか。
- ・将来交通量資料で供用を仮定している平成32年までに外環が整備されるかどうか疑問であり、六本木の再開発等で放射方向の交通量も増えると思われ「将

来交通量について」のパンフを大幅に見直す必要があるのではないか。

- ・外環ジャーナル21号の「地域P Iで出された主なご質問・回答」の必要性の根拠に疑問がある。
- ・外環は中央環状から10kmしか離れてなく、中央環状と圏央道ができた後に必要とされるなら外環をつくれればいいのではないか。
- ・予測の数値だけ示して外環が必要というのは疑問である。外環を税金でつくって、自分たちが苦しみ、結局あまり利用されないというのでは困る。
- ・費用対効果や経済効果の計算には多くの仮定をしているはずなので、結果だけでなく仮定をしっかりと示すべきである。

【インターチェンジ・ジャンクションについて】

- ・東名ジャンクションを砦公園の地下につくる案は検討に値しない案なのか、もし検討しているならば結果を示してほしい。それとも、これから検討するのか。
- ・料金所での渋滞による大気汚染を心配しているが、地下に料金所を設置することはできないのか。
- ・南進する計画も考慮した東名ジャンクションの模型や計画概念図を示してほしい。その上で、景観や環境への影響の議論をすべきである。
- ・野川への影響や立ち退き等少なくするため、東名ジャンクションを砦公園の体育館の地下につくる等してほしい。

(回答：国土交通省)

- ・都市計画による建築制限がかかっており、買収を前提に生活設計している人もいることから、大規模な土地が必要なジャンクションは現在の位置が適していると考えている。
- ・砦公園の下にジャンクションを設置するメリット、デメリットを整理して示したい。
- ・原点に立ち戻って検討し、現在のルートが適していると思うが、いろいろと提案をいただいたので、改めて検討してほしい。

【まちづくりについて】

- ・野川の改修が行われた際に生活道路が分断された。外環でも生活道路の分断が生じ、不便になりそうで心配であり、周辺道路の青写真を示してほしい。

(回答：国土交通省)

- ・生活道路は、詳細に設計する段階で皆さんの意見を聞きながら行っていく。

【環境影響について】

- ・国・都・区は緑が大事であると言っているのに、なぜ野川や国分寺崖線がある環境に恵まれたところに道路をつくるのか。
- ・大泉ジャンクションや環八の換気塔は美しいと思えず、同様のものが私たちの目の前に来ることは納得できない。
- ・外環ができることで、この地域には大気汚染や振動、地域分断、景観の破壊等が生じるので、もっと住民のことを考えて検討すべきである。
- ・南進まで考えると長期の工事になり、工事中の騒音、振動等が心配である。
- ・地下49m程度の地下鉄工事でも地上部に微振動が生じた事例があり、大深度でも振動が生じることを前提としてどのような対策がとられるのか。
- ・この周辺は東名高速の光化学スモッグの影響を受けた経験があり、外環の料金所に渋滞が発生することで自動車公害が増加するのではないかと心配である。
- ・らせん状に地下に入る道路をつくる等、砦公園を有効活用して野川等への影響を小さくしてほしい。
- ・近くに国立成育医療センターもあるので、換気所には最高水準の浄化施設を設置し、空気をこれ以上汚さないでほしい。

- ・この周辺はトンネルの出口で料金所もあり、全線が高架の計画の時よりも排気ガスの影響で環境が悪くなるのではないか。
- ・都が紹介した環八の換気所周辺で大気汚染が改善した事例は、元々環境が悪かったところが改善したのであって、この周辺では何もないところに換気所が設置されるために環境は悪くなると考えられる。都の回答はすり替えではないか。
- ・喜多見や大蔵地域のNO_x、SPMは大泉と同程度で、降下煤塵は大泉よりもはるかに多い。
- ・この周辺は学校が多い学童地区で、子供たちが多く中をなぜ道路を通すのか、若い人たちの健康が心配である。ルート変更を検討してほしい。
- ・環境に配慮して、現在の東名高速よりも下に東名ジャンクションのランプを設置する、野川の下を有効活用する等、抜本的な計画の見直しが必要ではないか。
- ・降下煤塵が1m³で12gという量は具体的にどのくらいなのか教えてほしい。昨年2月からまだ回答がない。
- ・以前から指摘しているが、世田谷区から配布された地質断面図と国が公表した環境の現地調査の結果になぜ相違があるのか調べてほしい。
- ・地下水は工法等の事例紹介だけでなく、実際に起こり得る問題やその対策事例等、はっきりとしたものが示されなければ納得できない。
- ・環境調査の報告書で、立川礫層が成城の下をつながっていたか確認してほしい。
- ・環境影響評価の方法書作成当時は、ジャンクションの設計や換気塔の位置等が決まっていなかったため、計画概念図にあわせた追加調査の予定はあるのか。
- ・人間の肺を真っ黒にしてまでなぜ自動車を優先するのか理由がわからない。
- ・国分寺崖線の赤松や黒松が枯れないか心配である。

(回答：国土交通省)

- ・環境施設帯を設けることで従前よりも緑を増やすことができる。
- ・工事中の大気、騒音、振動等への影響は環境影響評価の中で予測評価をする。
- ・工事の実施段階になれば、低騒音の機械を使用する、工事時間を限定する等、工事中の影響を抑える相談を地域とすることを考えている。
- ・トンネル上の微振動や低周波等は計算方法がないので、他のジャンクション等の実績で評価し、わかりやすく示す。
- ・環境への影響は現在どのような影響が出るのか作業しており、できるだけ早く示す。

【用地・補償について】

- ・都市計画の制限がかけられて、買い取りを約束しているからジャンクションを大深度地下にはできないというが、16km全線の用地買収の約束はどうなっているのか。
- ・用地買収の利益を見込んで引っ越してきた人とジャンクションができることで困っている人を同等に扱うべきではない。

【進め方について】

- ・3年前からいろいろな質問や意見をしてきたが、国や都は回答ができておらず、不信感を抱かせている。誠意を持った対応をしてほしい。
- ・以前実施されたアンケートはどの範囲が対象だったのか。喜多見上部は実施されなかった。
- ・再度アンケートをすると回答されたのだが、いまだに行われていない。
- ・都市計画決定は変更できないものなのか。
- ・工事の進め方に関する情報を示してほしい。
- ・住民の意見をより多く聴くために、この場で回答はせずに後日文書で回答してほしい。
- ・意見を聴く会で回答をしてもその場限りで議論が進まないため、過去の分も含

めて文書で回答してほしい。

- ・意見の数を把握することも重要と思うのでアンケートを再度実施してほしい。
- ・今回の意見を聴く会のチラシが配布されていなかった。
- ・意見を聴く会の議事概要に住民の心配の真意が書かれておらず、住民の意見が削除、脚色されているようである。
- ・原点に立ち戻って外環の必要性を検討して現在の計画が出てきたのであれば、他の計画案とも比較しているはずなので公表してほしい。
- ・意見を聴く会でP I会議の委員が一般住民と同じ位置づけになっていることが不満である。委員を地域P Iに参画させるべき。
- ・次回のP I会議で、委員が意見を聴く会にどう参画するか議論することを提案する。
- ・住民が不信感を抱いている、意見に対しての回答がない等、現在行っている話し合いはP Iとは言えないのではないか。
- ・ボストンのビッグディックの事例等、P Iでより良い案をつくるためには、お金をかけなければならない場合もある。
- ・意見を聴く会は国や都が意見に答える場所ではない。現在のような会では進歩も進展もない。
- ・外環は中止するという案も残っていることを忘れるべきでない。
- ・私の家を勝手につぶした東名ジャンクションのイメージ図を新聞のチラシに載せているという感覚が失礼である。
- ・外環ジャーナルに反対者の意見がすごく少なく、反対者の意見をもっと載せるように提案した。
- ・外環に反対している人は周りの声に騙されず、信念を持って反対していくべき。
- ・「手続き及び事業の流れと各段階での検討事項」の中に「現在はこの段階です」と書かれると、そのまま計画が進むような気にさせられる。
- ・外環が必要かどうか原点を見極めながら検討はできないものか。
- ・外環の必要性の議論に終止符を打つ段階ではないという事を認識した。
- ・アンケートを行うのであれば、質問事項の作成は難しいので、住民と一緒に考えるべきである。
- ・外環の必要性には疑問が残るので、引き続き必要性の議論をすべきである。
- ・意見を聴く会はまだまだ話し合いとは言えず、今後は、外環で本格的な地域P Iを実施するつもりはあるのか。
- ・実施されたものと同じアンケートを成城で実施したが違う結果になった。前のアンケートは外環を整備するデメリットが書かれておらず誘導的と思われ、アンケートの内容が住民の不信感を助長するのではないか。
- ・民主的なプロセスで外環の検討をしておすべきである。
- ・今回の意見を聴く会の回答を、文書で全員に配布してほしい。

(回答：国土交通省)

- ・アンケートはH14に計画線から50mの範囲で実施した。
- ・アンケートは意見の数を把握することを目的とした手法のため、意見を聴く会等で直接意見を聴く方がより有効と考えている。
- ・ジャーナルのQ & A等で、いただいた質問にはこれまでも回答している。
- ・今回の意見の聴く会のやりとりをとりまとめて、文書で回答できていない部分の補足をし、受付で住所と名前を書いた方に送付する。
- ・P I会議の委員の方々と相談して、意見を聴く会への参画方法を検討したい。
- ・意見を聴く会の議事概要の内容で、誤り等あれば指摘してほしい。